

●第14回 全国X線CT技術サミット

教育講演

座長集約

今回の第14回全国X線CT技術サミットの午前中には、教育講演として、肝臓の造影検査における撮影のポイントや造影方法に関する基礎知識について、辻岡勝美氏（藤田保健衛生大学）、寺澤和晶氏（長野赤十字病院）、萩原芳広氏（栃木県立がんセンター）、笹木 工氏（北海道大学病院）の4名に講演をしていただいた。

肝臓造影検査については、診療放射線技師や放射線科医の中でもいろんな場面で検討され、論文も多く出ているが、今回のテーマであるように、この領域は“簡単そうで難しい肝臓造影検査”なのだ、本サミット全体のプログラムを聴いて再度感じている。その中で、4名の講師には、与えられたテーマに対し、難しいながらも具体的なデータを提示しながら講演

座長集約

今回のテーマである“造影理論”は、生体に投与して濃染される作用であること、また、得られる画像がCT装置の特性に影響を受けることは明らかである。

寺澤和晶氏（長野赤十字病院）、笹木 工氏（北海道大学病院）の造影法、投与量を中心とした講演では、日常行っている体重比からヨード量を決定する造影法の妥当性は、分析の角度を変えても不変ということが理解できた。筆者はいつも造影理論を拝聴するとき、時間濃度曲線（time density curve : TDC）を取得する実験結果から生体の造影効果を統計学的に考察する、その理論の筋道に納得させられる。さらに、その手法が3D構築の際にどうなるかを明確に聴けて、今後の指標となったことは言うまでもない。

平野 透 札幌医科大学附属病院放射線部

を進めていただいたことで、複雑に思える検査手技を基礎から復習することができたのではないかと考えている。

現在、多くの施設が16列以上のMDCTを有しており、撮影線量や撮影時間が施設ごとにコントロールできる環境になってきていることから、今回の教育講演の内容は、ほぼどの施設でも適応できるような内容であったと考える。しかし、プログラム内のアンケートを見るように、個々の施設で検査に差異があるのは、医師を含めたスタッフ間のコミュニケーションが違うからではないかと思う。われわれは、普遍的なデータをもとにこの難しい検査を最適化するための話し合いが、今後さらに必要であると感じた。

大沢 一彰 済生会中和病院放射線科

辻岡勝美氏（藤田保健衛生大学）、萩原芳広氏（栃木県立がんセンター）の体動を考慮したピッチファクタ、時間感度プロファイル（time sensitivity profile : TSP）および撮影条件設定の考え方は、いずれもデータ精度を向上させ、かつ安定させる手法である。いずれも検査目的とする部位、疾患の特性や、がんの血流支配、分化度まで考慮したものであり、造影理論と合わせて、まさしくCT検査学とも言えるものである。複雑だと捉える前に、興味津々に臨床現場の乱雑な被写体の適正化に役立てたいものである。

冒頭に教育講演を拝聴し、その後の各講演の際、有意であったことは言うまでもない。